地球環境論および国際環境協力論の履修学生に見る環境意識
—アンケート調査結果のまとめ—

都　筑　良　明

Environmental Awareness of Students of "Global Environment Study (GES)" and "International Environmental Cooperation Study (IECS)": Some Findings from the Questionnaire Surveys

Yoshiaki TSUZUKI

Questionnaire Surveys were conducted in order to find concerns of the students and how they think they will make good use of the knowledge and experience obtained from the lectures: "Global Environment Study (GES)" and "International Environmental Cooperation Study (IECS)". It is found that the students of the GES tend to have general and overall concerns to many kinds of global environmental problems includes general environmental topics and global environmental problems, whereas those of the IECS specific concerns on the international environmental cooperation.

There also is difference between the consciousness of the students of the GES and the IECS on the concerns for the future especially about the jobs and environmental watters. The students of the GES are likely to have opinions that they want to make their private lives more environmental friendly, whereas most of the students of the IECS think that they want to make good use of their knowledge and experience obtained from the lectures for their jobs. As for the global environmental issues, life-styles of the ordinary citizens have got into the news recently; such as countermeasures to the global warming, water pollution caused by municipal wastewater and exhaust gas of cars. The students of the GES tend to think of their private life and it is concluded that young boys and girls of these ages can take environmental matters into consideration in their private life. The students of the IECS, mainly third-year students, are getting environmental awareness for their jobs in the future and their answers show that they have visions that environmental watters will be included in their jobs in the future.

1．はじめに

筆者の受け持つ地球環境論A、B、国際環境論A、Bの履修学生を対象として、授業内容に反映させることを主な目的としてアンケート調査を実施した。アンケート調査の結果から、履修学生が「環境」についてどのような意識でいるのか、何を学習したいと考えているのか、その学習成果を将来的

にどのように活かしていきたいと考えているのか、などが明らかになってきたので、その結果をまとめて示したい。本報が、大学における「環境」関連の学習、教育、研究の場面ではもちろんのこと、総合的学習が本年度から本格的に導入されている小中高校における学習の場面においても一助となれば幸いである。

2．授業およびアンケート調査の概要

2．1　授業の概要

地球環境論Aは春セメスター、地球環境論Bは秋セメスターに開講され、主に2，4年生を対象とする授業である。同様に、国際環境協力論Aは春セメスター、国際環境協力論Bは秋セメスターに開講され、主に3年生を対象とする授業である。ここで、地球環境論に関しては、4年生のカリキュラムでは通年の授業となっており、4年生は通年で履修している。3年生も2年生と同様に春または秋セメスターにセメスター単位で受講できる。地球環境論、国際環境論とも、国際学部、情報学部の双方の学生が履修していた。

これら4つの授業の授業概要を表1～4に示す。

地球環境論Aにおいては、数ある地球環境問題の中から最近のトピックの1つである地球温暖化を中心に取り上げ、京都議定書を中心とする国連等の場における温暖化に関する議論や、関連する科学技術的知見の概要、8月の末から9月はじめにかけて開催されたヨハネスブルグ（南アフリカ）における開発環境サミット等を中心的なテーマとした。地球環境論Bでは、地球環境論の概要を眺めた後、環境と科学技術、政治学、経済学、社会学、環境思想・環境倫理、公共セクター、民間セクターの取り組み（環境問題とビジネス）、持続可能性について取り扱った。

国際環境協力論Aにおいては、国際的な環境協力について考えるための基礎的バックグラウンドの学習を中心に考え、日本はどのような国なのか、日本の公害問題、日本が行っている国際環境協力の概要を中心とし、途上国に対する環境面での協力に関する内容は、秋セメスターの国際環境協力論Bで取り扱うこととした。国際環境協力論Bでは、国際環境協力の実際の事例をいくつか取り扱った後に、プロジェクト・サイクル・マネジメント（PCM）を一つの大きなテーマとして取り扱うなど、国際的な環境分野における協力について正面から取り扱った。

表1　地球環境論A授業計画

1．セメスター授業計画説明と発表者の決定
2．地球環境問題の枠組み
3．地球温暖化を科学者はどのように理解してきたか
4．エネルギー消費について考える
5．地球温暖化のメカニズム
6．地球温暖化に対する世界レベルの取り組み（IPCC中間報告など）
7．京都会議と地球温暖化防止のスケジュール
8．日本における温暖化対策（国、地方、企業、NGOなど）
9．環境制御のための政策
10．市民として、社会人（企業人、公務員など）として、何ができるのか

表 2　地球環境論Ｂ授業計画

1．地球環境問題の概要
2．地球環境問題と科学技術
3．地球環境問題解決のための科学技術
4．地球環境問題と政治学
5．地球環境問題と経済学
6．地球環境問題と社会学
7．地球環境問題と環境思想・環境倫理
8．公共セクターの取り組み
9．民間セクターの取り組み（環境問題とビジネス）
10. 持続可能性と地球環境問題
11. 市民として、社会人（企業人、公務員など）として、何ができるのか

表 3　国際環境計画論Ａ授業計画

1．セメスター授業計画説明と発表者の決定
2．日本は現在の世界の中でどのような国なのか
　　近現代史
　　経済的ポジション
　　技術力
3．日本の環境問題とその克服の歴史
　　公害列島と呼ばれた頃
　　官民の努力
　　公害問題から環境問題へ
4．日本は現在どのような国際環境協力を行っているか
　　国レベル（JICA 等）
　　地方レベル
　　民間企業
　　NGO
5．発展途上国の環境問題にはどのようなものがあるか
6．持続可能な開発
7．市民として企業人（公務員）としてどのように国際環境協力と関っていくのか

表4　国際環境計画論B授業計画

1．セメスター授業計画説明と発表者の決定
2．発展途上国の環境問題
3．持続可能な開発
4．日本の国際環境協力
5．環境分野におけるプロジェクト方式技術協力
　　プロジェクト方式技術協力の意義と仕組み
　　環境分野におけるプロジェクト方式技術協力
　　プロジェクト方式技術協力の費用対効果
　　プロジェクトの評価とPCM
6．経済開発論
7．市民として企業人（公務員）としてどのように国際環境協力と関わっていくのか

2．2　アンケート調査の概要

アンケート調査は、各授業の1回目にアンケート用紙を配布して実施した。アンケートの質問の内容は表5に示す通りで、全問、自由回答形式とした。アンケートのねらいとしては、次のようなことを考えた。

表5　アンケートの設問の内容

① この授業で何を学びたいですか。
② 半年の授業中にプレゼンを行うとしたら、どのようなテーマを選びたいですか。
③ あなたにとって「国際環境」、「国際環境協力」とは何でしょうか。
④ これまで、国際環境協力、国際協力について、どのようなことを学んできましたか。
また、各回答項目について、次のA～Fに分類してください。

役に立ちそうなこと(A)、面白いこと(B)、関心があること(C)、
役に立たなそうなこと(D)、つまらないこと(E)、関心がないこと(F)

1）大学
2）高校
3）中学校
4）小学校、就学前

⑤ 卒業後、自分は、どのように国際環境協力に関わっていく（関わっていかない）と考えていますか。

注）このアンケートの設問は、国際環境協力論A、Bの履修学生に対するものである、地球環境論A、B履修学生に対するアンケートの設問では、下線部を「地球環境」、「地球環境論」とした。

① 最近の初等、中等教育では、「環境」が社会、理科、技術家庭科等のいくつかの教科の中で取り上げられたり、総合的な学習の時間のテーマとされたりしている。また、大学入学後も環境を取り扱う授業を履修したり、ゼミ、課外活動等で学習や体験を深めていることが考えられる。このような状況において、授業を履修する学生達がこれまで「環境」をどのように学習してきていると考えているかを、さらには、学生がこの授業を通じての学習を将来的にどのように生かそうと考えているのかを、授業の出発点として、授業を担当する私が把握する。
② 学生が、これまで「環境」をどのように学習してきているかを、改めて考える機会とする。
③ 学生が、授業の履修に際して、漫然と学習するのではなく、将来的に現在の学習がどのように役立つのか、どのように役立てようと考えているのかを、意識的に考える。

3．アンケート調査結果

アンケート調査の結果を説明する。調査結果の全体については、資料として末尾に付す。これらの調査結果の全体を眺めることにより、サンプル数は少なめな感もあるが、地球環境論、国際環境協力論の受講者を母集団とする学生の環境に対する意識を読み取ることができるであろう。

本論では、これらの調査結果をいくつかの観点から集計した結果に基づいて、学生の「環境」についての意識を見ていくこととする。

3．1　地球環境論のアンケート調査結果

地球環境論のアンケート調査結果について説明する。地球環境論Aの回答数は37人、地球環境論Bの回答数は20人であった。

3．1．1　設問①

はじめに、「設問①この授業で何を学びたいですか。」への回答項目について見ることとする。地球環境論の場合には、設問①については、1）環境一般、2）地球環境、3）地球温暖化に分類し、さらにこれらを、1）自然科学的な側面からの見方、2）政治・社会科学的な側面からの見方、3）全般的な見方に分類した。3×3＝9分類に加え、「その他」1分類を加え、回答を合計10項目に分類した。表6に、春セメスター（地球環境論Aおよび通年の地球環境論の前半）、秋セメスター（地球環境論Bおよび通年の地球環境論の後半）、および通年（春、秋セメスターの合計）についての10分類の回答項目数を集計した結果を示す。

表6　地球環境論「設問①この授業で何を学びたいですか。」への回答の集計結果

項目	自然科学		政治・社会		全般		小計					
	春	秋	春	秋	春	秋	春		秋		通年	
							回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
環境	1	0	5	3	10	6	16	36	9	47	25	39
地球環境	1	1	3	4	12	5	16	36	10	53	26	41
地球温暖化	0	0	2	0	8	0	10	22	0	0	10	16
その他	－	－	－	－	3	0	3	7	0	0	3	5
小計	2	1	10	7	33	11	45	100	19	100	64	100

1）環境一般、2）地球環境、3）地球温暖化、4）その他の4分類の回答項目数の全体の回答項目数に対する割合を見ると、春セメスターには、それぞれ、36，36，22，7％、秋セメスターには、それぞれ、47，53，0，0％、通年では、39，41，16，5％であった。春セメスターには、授業概要において地球温暖化を中心に取り扱うことが明記してあったこともあって、地球温暖化を中心に学習したいという学生が2割程度いたことになる。しかしながら、秋セメスターには、地球温暖化を中心に学習したいと回答した学生はいなかった。これは、連続して受講している学生であっても、春セメスターに中心的に学習した地球温暖化についての学習をさらに深めるよりも、他の環境関連の学習をして行きたいという考え方が現れたものだと読み取ることが出来る。

春セメスター、秋セメスターに共通して、広く、「環境」、「地球環境」に関心を示している学生が多いのが特徴となっている。これらの項目の回答割合は、春セメスターには、それぞれ、36，36，47，53％であった。春セメスターには、この他に、前述のように地球温暖化という回答の割合が22％あり、その他が7％あった。

「その他」の回答については、「私たちに何ができるのか。」といった漠然とした回答が含まれている。春セメスターでは、最初の授業時間に、地球温暖化によって国全体が海に沈むことが予想されている太平洋の島国、ツバルについてのビデオを見た後、グループでディスカッションを行った。「その他」の回答の中には、「私たちは何をしていくべきなのかを話し合っていきたい」というものがあったが、これなどは、第1回目の授業でのディスカッションが肯定的に受け止められたもので、授業の中でディスカッションを行うような学習形態が学生に好意的に受け止められたことを示しているとも考えられる。

1）自然科学、2）政治・社会科学、3）全般の3分類について見た場合には、回答項目の割合は、それぞれ、5，27，69％となっており、「自然科学」よりも、「政治・社会科学」の分野への関心が高いようであった。「自然科学」の分野に関心を持つ学生も若干名いることが分かった。参考までに、地球環境論Bの授業の際に、各自について、文系か理系かどちらと思うかという質問に挙手で回答してもらったところ、ほとんどが文系であったが、理系だと思うと回答した学生も1～2割程度いた。また、8～9割の学生が文系であると考えている中で、関心の対象が、「政治・社会科学」よりも「全般」の回答数が多かったのは、授業概要に、科学者、科学技術、といったキーワードが含まれているためとも考えられる。授業の担当者として、また、筆者自身が工学系の出身であるためもあるかもしれないが、自然科学的な仕組みについても、学生がある程度の理解をしてほしいと望む面があり、自らを文系と考える学生が、自然科学的興味や関心を持つことを歓迎したい。

3．1．2　設問②

次に、「設問②半年の授業中にプレゼンを行うとしたら、どのようなテーマを選びたいですか。」への回答項目について検討する。回答の集計結果を表7に示す。ここで言うプレゼンとは、授業の一部の時間を使って、学生が予め届け出たテーマについての調査を行った結果を約10分程度で発表するということを行ったもので、そのテーマについて、セメスター開始時に調査したのが本設問である。実際のプレゼンの内容は、このアンケート調査の項目とは必ずしも一致しないが、全体的にこの設問への回答があったテーマを中心に選択されていたことを申し添えておく。

表7　地球環境論「設問②半年の授業中にプレゼンを行うとしたら、どのようなテーマを選びたいですか。」への回答の集計結果

項　目	春		秋		通　年	
	回答数	割　合	回答数	割　合	回答数	割　合
各論	30	73	14	64	44	70
先進国と途上国	3	7	1	5	4	6
環境論	6	15	6	27	12	19
その他	2	5	1	5	3	5
小　計	41	100	22	100	63	100

回答項目を、1）各論、2）先進国と途上国、3）環境論、4）その他、の4つに分類して整理した。地球環境論は大きくは地球環境問題を扱う授業であり、春セメスターではその中でも地球温暖化を中心的なテーマとして扱った。いわゆる地球環境問題としては、地球温暖化の他に、オゾン層の破壊、酸性雨、森林の減少、砂漠化、有害廃棄物の越境移動、野生生物種の減少、海洋汚染、開発途上国の公害問題などがあり、これらの各論の回答割合が、春セメスターで73%、秋セメスターで64%、通年で70%と多かった。この他には、「先進国と途上国」に分類される回答が通年で6%、「環境論」が同じく19%あった。これらの内容としては、例えば、前者には、「先進国と途上国の環境問題について」、「先進国が途上国の自然を破壊しているという現実」といった回答が含まれ、後者には、「経済活動と環境保護は両立するのか」、「企業に対して、どこまで制限できるのか」、というような回答が含まれている。これらの回答から、受講生の中にはこれまで「環境」について何らかの学習をしてきており、自分なりの問題点を持って授業に臨んでいる学生がいることが分かる。

このように、地球環境論の授業の中でのプレゼンのテーマを問う設問への回答としては、学生の多くがいくつかの地球環境問題と言われるテーマの中から各論を選択していた。また、より深く「環境」について考えている学生も、受講生の中にある程度いることが分かった。

3．1．3　設問③

次に、「設問③あなたにとって『地球環境』、『地球環境論』とは何でしょうか。」への回答結果について検討する。回答の集計結果を表8に示す。ここでは回答を、1）抽象的に言い表したもの、2）心構え、3）地球環境、地球温暖化の内容、の3種類に分類した。1）の例としては、「地球環境は地球上にいる全生物に関わるもので、かけがえのないものだと思います」、「人類に課せられた永遠のライフワーク」というようにイメージを言い表したものが含まれ、この種の回答が、春セメスターで58%、秋セメスターで75%、通年で64%と多かった。2）の例としては、「人間が地球に生きる一つの生命として守っていかなければいけないのが地球環境だと思う」、「これから地球には様々な問題が出てくると思うのですが、地球に住んでいる以上、解決策を見つけていかなくてはいけないと思います」といった回答が含まれ、この種類に区分した回答が、春セメスターで28%、秋セメスターで25%、通年で27%と、約4分の1を占めた。

表８　地球環境論「設問③あなたにとって「地球環境」、「地球環境論」とは何でしょうか。」への回答の集計結果

項　　目	春		秋		通　年	
	回答数	割　合	回答数	割　合	回答数	割　合
抽象的に言い表したもの	21	58	15	75	36	64
心構え	10	28	5	25	15	27
地球環境、地球温暖化の内容	5	14	0	0	5	9
小　　計	36	100	20	100	56	100

3）に分類したのは、「地球環境保護および現在の地球温暖化の原因と自然破壊の問題だと思っている」、「温暖化やオゾン層の破壊など、何かしら私達の普段行っている行為もその原因に含まれて、環境が破壊されていること」などのように、地球環境問題の具体テーマに言及した回答である。このような回答は、春セメスターで14%、秋セメスターではそのような回答がなく、通年で９％と、比較的少なく、これは筆者の予想外であった。

このように、抽象的な表現や、心構えのメッセージのような回答が多かった原因として、設問が抽象的であったことが考えられる。また、日頃、社会科学系の学習を多く修めているために、ある種、文学的とも言える表現方法に慣れ親しんでいることもあるかと考えられる。回答の中には、地球環境（論）についての様々な表現が散見され、一読の価値があるものとなっているのではないかと思っている。

３．１．４　設問④

次に、「設問④これまで、地球環境について、どのようなことを学んできましたか。また、各回答項目について、次のＡ～Ｆに分類してください。」への回答の集計結果を表９に示す。Ａ～Ｆは、それぞれ、(A)：役に立ちそうなこと、(B)：面白いこと、(C)：関心があること、(D)：役に立たなそうなこと、(E)：つまらないこと、(F)：関心がないこと、とした。アンケート用紙上では、Ａ～Ｃを一つの欄に、Ｄ～Ｆをもうひとつの欄に回答するような表を作成した。回答者、回答項目によっては、表に回答項目の記述はあるが、Ａ～Ｆの指定がない回答が多くあったため、表９の整理に際しては、Ａ～Ｃの欄へ記入された項目でＡ～Ｃの指定がないものについては「＋：プラスの評価」、Ｄ～Ｆの欄へ記入された項目でＤ～Ｆの指定がないものについては「－：マイナスの評価」の欄を設けて、ここに集計した。また、回答項目によっては、Ａ～Ｆの記号が１項目に２個、記されているものがあったため、これらの回答項目については、それぞれの記号に0.5ポイントずつを配分した。何人かが同様の項目を回答している場合があるため内容は重複するが、回答総数は、春セメスターで134件、秋セメスターで72件、合計206件となっており、回答者数（春：37人、秋：20人）を考えると、春セメスター、秋セメスターとも１人当たり3.6件の回答があったことになる。

表9　地球環境論「設問④これまで、地球環境について、どのようなことを学んできましたか。また、各回答項目について、次のA～Fに分類してください。」への回答の集計結果

期　間	春									秋								
	A	B	C	D	E	F	＋	－	小計	A	B	C	D	E	F	＋	－	小計
大学	7	3	17	0	0	2	22	0	51	7	1	5	0	0	0	13	1	27
高校	11.5	1	8.5	0	0	0	15	1	37	2	1	5	0	0	1	8	0	17
中学	7	3	6	0	0	2	12	0	30	2	1	4	0	0	0	9	0	16
小学校&就学前	5	2	2	0	0	0	6	1	16	1	2	1	0	0	0	8	0	12
小　計	30.5	9	33.5	0	0	4	55	2	134	12	5	15	0	0	1	38	1	72
割合（%）	23	7	25	0	0	3	41	1	100	17	7	21	0	0	1	53	1	100

期　間	通　年								
	A	B	C	D	E	F	＋	－	小計
大学	14	4	22	0	0	2	35	1	78
高校	13.5	2	13.5	0	0	1	23	1	54
中学	9	4	10	0	0	2	21	0	46
小学校&就学前	6	4	3	0	0	0	14	1	28
小　計	42.5	14	48.5	0	0	5	93	3	206
割合（%）	21	7	24	0	0	2	45	1	100

注）(A)：役に立ちそうなこと、(B)：面白いこと、(C)：関心があること、(D)：役に立たなそうなこと、(E)：つまらないこと、(F)：関心がないこと、＋：プラスの評価、－：マイナスの評価

また、回答項目のほとんどが、A～Cまたはプラスの評価となっており、D～Fまたはマイナスの評価の解答項目は、春セメスターに6件（約4％）、秋セメスターに2件（約3％）あったのみだった。このことから、受講生の多くが、環境関連の項目について、役に立ちそう、面白そう、あるいは関心があるといったように、肯定的に捉えていることが読み取れる。これらの項目について、時々の話題になったこと、教科書等への教材に取り上げられた時期との関係等を調べることにより、小中高における環境に関する学習の効果の一面について考えることができるのではないかと考えられる。この点については、今後の課題としたい。

D～Fまたはマイナスの評価とされた項目には、「ごみを捨てる場所の問題」、「自動車,、パソコンの廃棄問題」、「工場による有害問題」、「生活廃水による海の汚染」、「工場の排気による大気汚染」、「ごみ処理」、「ディープ・エコロジー」、「工場による公害」があった。これらは主に、従来型の公害問題に関する項目とごみ問題に関する項目であるのが特徴的である。従来型の公害問題についても、肯定的な評価をしている回答もあったことから、一部の学生は従来型の公害問題にはあまり関心を持っていないということが分かった。

3．1．5　設問⑤

地球環境論のアンケート結果の最後として、「設問⑤卒業後、自分は、どのように地球環境に関わっていく（関わっていかない）と考えていますか。」への回答を表10に示す。ここでは、回答の内容を、1）生活上の一般的考え方、姿勢、2）地域活動等、3）仕事、の3種類に分類した。回答項目によっては3つの分類のうちの2種類にまたがるものがあったため、これらについては2種類の分類に0.5ポイントずつを配分した。

表10　地球環境論「設問⑤卒業後、自分は、どのように地球環境に関わっていく（関わっていかない）と考えていますか。」への回答の集計結果

項　　目	春		秋		通　年	
	回答数	割　合	回答数	割　合	回答数	割　合
生活上の一般的考え方、姿勢	22	58	12.5	57	34.5	58
地域活動等	5.5	14	2	9	7.5	13
仕事	10.5	28	7.5	34	18	30
小　　計	38	100	22	100	60	100

春、秋セメスターとも、「生活上の一般的考え方」に関する回答が最も多く、「仕事」、「地域活動」の順番であった。「生活上の一般的考え方」に関する回答が最も多いのは、最近になって、政府の地球温暖化防止キャンペーンの中で、生活由来の二酸化炭素の削減に重点が置かれていたり、河川や海域の汚染源として生活排水の重要性が指摘されてきているような社会的状況を反映するものであるという側面と、まだ「環境」についての学習がそれ程高度なレベルになく、身の回りのことに関心がとどまっているという側面があると考えられる。「仕事」に関しては、2年生は一部の受講生を除いて、まだ結びつけられてはいないが、4年生になると具体的に考えている受講生が多くなる傾向にあった。

「環境」は、NGO、NPO等の組織を始めとする「地域活動等」が比較的活発な分野の一つであるが、「地域活動等」に分類される回答割合は通年で1割ほどであり、受講生全体にとっては、「地域活動等」は比較的なじみの薄い分野であると判断できる。しかしながら、このような活動方法に言及する受講生がいるということは、NGO、NPO等の活動を何らかの形で認識し、さらにそのような活動への参加に関心を持つような学生も受講生の中にいるということが分かり、このような面の情報提供も今後何らかの形で行っていくことが必要であると考えられる。

3．2　国際環境協力論のアンケート調査結果

国際環境協力論のアンケート調査結果について説明する。国際環境協力論Aの回答数は34人、国際環境協力論Bの回答数は3人であった。国際環境協力論Bの受講者数が少なかったため、国際環境協力論のアンケート調査結果については、春、秋セメスターに分けずに、通年での集計結果を示す。

3．2．1　設問①

「設問①この授業で何を学びたいですか。」への回答の集計結果を表11に示す。ここでは、回答項目を、1）日本の環境、2）国際環境協力（ODAを含む）、3）国際機関、4）途上国、5）その他、の5種類に分類した。2種類の内容を含む回答項目については、それぞれ0.5ポイントずつを配分した。春セメスターの国際環境協力論Aの授業概要は、国際的な環境協力について学習する前段階として、現在の日本の位置付け、日本の公害問題の概要等を学習した後、日本の環境分野のODAを中心とする内容を学習するような構成とした。したがって、授業担当者のねらいとしては、半分くらいは日本の話になると考えていた。しかしながら、受講生のアンケートを集計した結果は、「日本の環境」を学びたいという回答はわずか約1割であった。

表11　国際環境協力論「設問①この授業で何を学びたいですか。」への回答の集計結果

項　　目	通　年	
	回答数	割　合
日本の環境	4.0	12
国際環境協力（ODA を含む）	16.5	49
国際機関	1.0	3
途上国	1.5	4
その他	11.0	32
小　　計	34.0	100

回答の割合が大きかったのは、「国際環境協力（ODA を含む）」の51%、「その他」の32%で、前者は、「国際環境協力はどのような分野があるのか。国際環境協力が役に立つとしたらどういうところか」、「基本的にはどのような協力を行っているのか」といった基本的な回答が中心であり、後者には、「世界の人々が環境についてどう考えているのか。また、どのようにすれば環境を良くするために人々の意識が変わるのか」といった人々の考え方に関する関心や、「日本と他の多くの国々とのつながり。歴史などを通じてもっと詳しく知りたいです」、「環境という媒体を通し、国と国との関係や歴史的背景を学びたい」といった環境に限らずに広く国際関係についての関心を表明するものがあった。

余談になるが、国際環境協力Ｂの受講者が激減したのは、このような国際環境協力Ａの受講者のニーズを重要視せずに、当初の授業概要のままに授業を進めたことが、受講者の関心とずれた内容となっていたためである可能性があるだろう。国際環境協力Ｂでは、授業概要のように途上国の環境問題を実際に取り扱ったり、プロジェクト方式援助を取り上げたりしようと考えていたので、こちらの内容を前倒しして取り扱うなどの対策が必要だったかもしれない。ちなみに、国際環境協力Ｂでは受講者数が少なくなったので、ゼミ形式で授業を進めた。

３．２．２　設問②

「設問②半年の授業中にプレゼンを行うとしたら、どのようなテーマを選びたいですか。」への回答の集計結果を表12に示す。地球環境論の設問②の集計と同様に、1）各論、2）国際協力の実際と考え方、3）先進国と途上国、4）国際機関、5）環境論、6）その他、の６種類に分類して集計した。回答の割合は、「国際協力の実際と考え方」が最も多く38%を占めた。これには、「日本が環境問題に対してどのような国際協力を実際に行っているのか。その成果は」、「国際協力の弊害について」などの回答があった。次いで、「各論」、「先進国と途上国」、「環境論」に分類される回答がそれぞれ17%ずつであった。国際環境協力論受講生の関心の対象としては、予想される回答であると言えるだろう。回答の中には、「日本と世界の駆け引き」、「いかにして国益を守り、環境保護をするのか」などというものもあり、これは、国際環境協力Ａの第１回目の授業で、国際連盟設立時の規約に人種差別撤廃に関する内容を盛り込む件についての日本の提案に関する、各国の駆け引きを取り扱ったビデオを紹介した影響であると考えられる。このような視聴覚教材を用いて受講者の関心を高めることも有効であろう。

表12　国際環境協力論「設問②半年の授業中にプレゼンを行うとしたら、どのようなテーマを選びたいですか。」への回答の集計結果

項　　目	通　年	
	回答数	割　合
各論	5	17
国際協力の実際と考え方	11	38
先進国と途上国	5	17
国際機関	1	3
環境論	5	17
その他	2	7
小　　計	29	100

「国際機関」に分類される回答の割合は3％で、受講生の関心が、国際機関には意外と低いことが分かった。これが、国際学部、情報学部の学生の全体的な傾向なのか、たまたま今回のアンケート対象となった受講生の特徴なのかを明らかにするには、さらなる調査が必要である。

3．2．3　設問③

「設問③あなたにとって「国際環境」、「国際環境協力論」とは何でしょうか。」への回答の集計結果を表13に示す。地球環境論の設問③への回答の集計結果を示す表8と同様に、1）抽象的に言い表したもの、2）心構え、3）国際環境協力の内容、4）その他の4種類に分類した。1）～3）については、3）が「地球環境、地球温暖化」の替わりに「国際環境協力」となっている違いだけで、各分類の意味合いは地球環境論の設問③の集計と同様である。「その他」は、「今はまだどういうものが「国際環境」や「国際環境協力」なのか分からないので、これから学んでいきたいです」といった回答を集計したものである。

表13　国際環境協力論「設問③あなたにとって「国際環境」、「国際環境協力論」とは何でしょうか。」への回答の集計結果

項　　目	通　年	
	回答数	割　合
抽象的に言い表したもの	17	57
心構え	7	23
国際環境協力の内容	4	13
その他	2	7
小　　計	30	100

表13から、1）～3）の割合が、それぞれ、57，23，13％となっていることが分かり、これは地球環境論の設問③を集計した表8の64，27，9％と近い数字になっている。今回のアンケート調査の対象とした地球環境論、国際環境協力論の受講生は、このような設問に対しては、抽象的な表現を用いたり、心構えを回答するという傾向が見られた。

回答の内容を見直してみると、国際機関、インフラ、経済発展の不均衡、木材伐採、エネルギー消

費、グローバル化等のキーワードを見つけることもできる。回答の集計方法をどのような内容を扱っているかという視点にするなどの方法とするのも興味深い集計結果が得られるのではないかと考えられる。今後はこのような集計方法も検討したい。

3．2．4　設問④

設問④はこれまで、国際環境協力についてどのようなことを学んできたかを問う設問で、A～Fおよびプラスの評価、マイナスの評価に分類した集計結果を表14に示す。A～Fやプラスの評価、マイナスの評価については、地球環境論のアンケートと同様である。

合計79件の回答のうち、A～Cとプラスの評価の合計が72件（約91%）、D～Fとマイナスの評価の合計が7件（約9%）と、ここでも地球環境論の場合と同様に、「国際環境協力」に関する事項については、役に立ちそう、面白い、関心がある、といったプラスの評価をしている場合が多いことが分かった。内容の詳細については、地球環境論の場合と同様に、今後の検討課題としたい。

国際環境協力で特徴的な傾向として、中学、高校の時期に、国際環境協力について、英語と関連して学習したという回答があったこと、大学入学後の学習内容が具体的に挙げられていること、が挙げられる。

マイナス側の評価がされた回答内容は、「CO_2とか数学、理科のことはキライ」、「資源について」、「小中高までは遊びとか勉強に忙しくて、関心をもてなかった」、「オゾン層について」、「ほとんど授業では触れなかった」、「授業では取り扱っていない」等であった。

以上のことから、国際環境協力論という授業を受けるために教室に集まっている受講生は、そのバックグラウンドに様々な内容を持っており、これらの受講生のニーズを全て満足させるのはもとより困難なことであろう。半年の授業だけで受講生も満足し、授業の担当者としての満足感も得られるような授業を行っていくよう、今後も検討を重ねる必要があるだろう。

表14　国際環境協力論「設問④これまで、国際環境協力について、どのようなことを学んできましたか。また、各回答項目について、次のA～Fに分類してください。」への回答の集計結果

期　間	通　年								
	A	B	C	D	E	F	＋	－	小計
大学	11	2.5	12.5	0	0	0	10	1	37
高校	5	0	3	0	0	2	6	2	18
中学	3	3	3	0	1	0	3	1	14
小学校＆就学前	4	1	3	0	0	0	2	0	10
小　計	23	6.5	21.5	0	1	2	21	4	79
割合（%）	29	8	27	0	1	3	27	5	100

注）(A)：役に立ちそうなこと、(B)：面白いこと、(C)：関心があること、(D)：役に立たなそうなこと、(E)：つまらないこと、(F)：関心がないこと、＋：プラスの評価、－：マイナスの評価

3．2．5　設問⑤

「設問⑤卒業後、自分は、どのように国際環境協力に関わっていく（関わっていかない）と考えていますか。」への回答の集計結果を表15に示す。地球環境論受講者を対象とする同様の設問への回答

の集計結果は、先述のように、表10に示してある。地球環境論受講者の場合には、卒業後の地球環境との関わりは、「生活上の一般的考え方、姿勢」に関する回答の割合が58%と大きかったのに対して、表15に示す国際環境協力論受講者の回答は、「仕事」を念頭に置いているという回答が最も多く、62%を占めていた。

表15　国際環境協力論「設問⑤卒業後、自分は、どのように国際環境協力に関わっていく（関わっていかない）と考えていますか。」への回答の集計結果

項　　目	通　年	
	回答数	割　合
生活上の一般的考え方、姿勢	4	16
地域活動等	1	2
仕事	16	62
その他、分からない	5	20
小　　計	25	100

この原因としては、地球環境と国際環境協力とを比較した場合に、前者は問題が多項目に及び、全体像を捉えがたい面があるのに対して、後者は途上国援助等と関連してイメージを具体化し易いという面があること、国際学部の学生を中心に既に国際関係、国際協力等の授業を受講しているという意味で、国際環境協力の方が地球環境に比べて具体的に考えることができた、といったものが考えられる。「関係しない仕事についたとしても、その立場でできる環境に配慮した活動をしたい」、「まだよく分からないが、何らかの形で関わっていくと思う。今の社会では、どんな仕事でも環境問題が必ず関わってくると思う」、「もっと広い視野で世界を見てみたい。環境問題によって被害を受けた人々を何とかしてあげたい」などといった積極的な姿勢が目に付く。

4．学生が「環境」について何を学習したいと考えているか

前章での地球環境論、国際環境協力論のそれぞれのアンケート結果の集計結果を基に、学生が「環境」について、何を学習したいと考えているかについて検討してみたい。この内容を直接問うているのは設問①である。

地球環境論では、「環境一般」、「地球環境」について学習したいという回答が、それぞれ4割前後と多かったのに比べて、「地球温暖化」について学習したいという回答は1～2割と少なかった。このことから、授業概要で記しているように授業担当者としては地球環境論Aでは地球温暖化を中心に話を進めることを明らかにしているにも関わらず、受講者は地球環境全般あるいは環境全般についての学習を期待していることが分かる。

地球環境論Aの授業を振り返ると、地球環境問題と言われるものには多くの問題があること、地球温暖化だけを対象とする場合に、自然科学的側面から条約や国際交渉の問題等まで幅広い様々な側面があること、がある程度は伝えられたのではないかと考えている。

一方、国際環境協力論の受講生の同じ設問への回答は、国際環境協力（ODAを含む）に分類される回答の割合が57%と大きく、受講生の多くが国際環境協力そのものを学習することを目的として授業を選択しているのが分かる。国際学部の3年生であれば、国際関係等についての知識をバックグラ

ウンドとして備えつつあると考えられるので、国際環境協力論Aの内容としては、その延長線上で環境をテーマにした国際環境協力についての内容を提供すれば、受講生側の満足度は大きかったのかもしれない。

先述のように、国際環境協力論Aの授業概要はこのようなニーズに応えるものと言うよりも、国際環境協力について学習するためのバックグランド的な内容となっている。国際環境協力論Aについては、受講者側と授業担当者側とのこのような意識のずれがあったのではないかと考えられる。そのような部分で、今後は、授業担当者の意思が受講者に十分に伝わると同時に受講者側の関心の対象を授業担当者が把握できるような工夫が必要となるであろう。

5．学生が「環境」についての学習成果を将来どのように役立てようと考えているか

「3．アンケート調査結果」での各設問についての検討結果を基に、学生が「環境」についての学習成果を将来どのように役立てようと考えているかを検討する。この問題を直接扱っているのは、設問⑤である。設問⑤についての回答の集計結果を見ると、地球環境論の受講生の回答では、「生活上の一般的考え方、姿勢」として環境に配慮していきたいという回答が58%と多かったのに対して、国際環境協力論の受講生の回答では、「仕事」と「環境」を関連させていきたいという回答が62%と多くなっている。

地球環境論の受講生の回答に「生活上の一般的考え方、姿勢」として環境に配慮していきたいという回答が多かった理由として、1）最近の地球温暖化対策や、生活廃水の汚濁負荷量の大きさが明らかになる等の流れの中で、工場や大規模な対策だけではなく、生活レベルの環境面の取組みが重要であると言われてきているという背景がある、2）地球環境問題の内容が多岐に渡り把握しにくい部分があって、そのために仕事を含む自分の将来と結び付け難い、といったものが考えられる。

以上のような地球環境論受講者と国際環境協力論受講者との、今回の回答内容の違いが、上記のような理由に基づくものなのか、それとも偶然の結果なのかを明らかにするためには、今後の検討が必要である。

合わせて考えると、大雑把な話になるかもしれないが、学生は「環境」に関して、卒業後、将来的に、自分の生活レベルと仕事のレベルとの両方で考えていこうとしているということが言えるだろう。そして、授業ごとに、どのように役立てるかを自分なりに考えたり、選択したりしているのではないかと考えられる。

6．まとめ

地球環境論と国際環境協力論の受講者を対象に、授業へ期待することや、「環境」についての考え方を把握するために、アンケート調査を実施し、その回答を集計した結果、次のようなことが分かった。

学生が「環境」に関してどのようなことを学習しようと考えているかについては、地球環境論では、「環境」や「地球環境」全般について学習しようと考えている受講生が多かった。これは、これまで「地球環境問題」、「地球環境論」に関して、体系的に学習する機会がほとんどないが、いくつかの地球環境問題と言われる項目については知っているという学生が多く、この授業を受講することにより、地球環境問題についての理解を深めたいと考えていることが分かった。

国際環境協力論では、国際学部の学生を中心に既に国際関係等についての学習を進めているために、ある程度の国際的な関係についての知識や経験を背景にしながら、環境の面での国際協力を学習しようと考えている受講生がある程度の割合を占めていたものと考えられる。国際環境協力論Aでは、日本についての現状認識から始めて、日本の公害の歴史、日本の国際環境協力と、日本を中心とした授業を展開したために、前述の受講生のニーズと合わなかった可能性があると考えられる。このことが、秋セメスターの国際環境協力論Bの受講生の人数が極端に減少した原因の一つに挙げられると考えられる。

受講生が地球環境論、国際環境協力論の授業を通じて得た内容を、卒業後、どのように生かしていこうと考えているか、ということに関しても、地球環境論、国際環境協力論で異なる傾向が示された。地球環境論の受講生の回答では、日常の生活の中で環境配慮をして行きたい、という考え方の回答が多く見られたのに対して、国際環境協力論の受講生の回答では、仕事の中で生かしていきたいという回答が多く見られた。前者については、地球環境に関しては、近年になって、地球温暖化対策、生活雑排水による水質汚濁、自動車排ガス等の場面で、一般市民の生活由来の環境問題が取り上げられるようになっており、このような流れを背景にして、日頃から、一市民として環境配慮を心がけることが必要だという意識が若者にあることの反映である可能性があると考えられる。この点については、今後の更なる検証が必要であろう。

後者については、国際学部の3年生として、就職等を間近に控える時期になり、卒業後を考えた場合に、仕事の中で「環境」と関わっていこうという意識が芽生えているものだと考えられる。

今後は、本文中に指摘した点を中心にアンケート結果の集計を続けるとともに、学生、受講生の意見を聞く機会を増やしながら、より生きた授業ができるように心がけていきたいと考えている。

7．謝辞

紀要への執筆の機会を設けてくださった文教大学国際学部の関係者の方々ならびに地球環境論、国際環境協力論を受講し、アンケート調査に協力してくれた学生諸子に対して、ここに記して感謝致します。

資料1　地球環境論Aのアンケート集計結果

①この授業で何を学びたいですか。

- 環境についての新しい知識を得たいと思います。また、地球環境論ということなので、地球規模での問題やそれに対する地球全体としての各国の取組み、それに伴う痛み（問題点や犠牲など）の現状や私達がなすべき事など、小さな事から地球規模の大きな事まで知識として広げていきたいです。
- 現在、世界の地球温暖化の原因と環境保護など、環境についての知識をもっと深めたいです。
- 数多くある環境問題について、それぞれの中身、背景を深く学びたいです。
- 地球環境論Aという授業を受けることによって、今、私達と同じ時代を生きている人達でどれだけの差があり、どういったことが起きているかを知り、それに対して考え、感じることができれば良いと思います。そして、それに私達日本人は何ができるのかについても共に考えてい

きたいです。
- 地球の環境破壊がどのくらい進んでいるのか、また、それらを解決するためには何をするべきか、具体的なことを知りたいです。
- 世界的に環境問題について話されている時代になりつつあるけれども、現在において、どの程度、環境保護を実行に移しているのか、国別に学びたいです。
- 地球上で起きている環境問題（原因、メカニズム、結果）。そして、自分が将来それらに対応してどういうことができるのか。何か自分にいかせるもの。「環境」の題には前から興味があったので。
- 今、まさに地球規模で起きている環境問題について、その実態、本質的には何が問題なのか。それを解決するにはどうするべきなのかといった事を学びたい。
- 地球温暖化や熱帯雨林の減少、砂漠化などの環境問題がどんな原因で起こったのか。また、途上国の環境問題は貧困や紛争とどんな関係があるのか。問題解決のために、私たちにできることは何か。世界の状況（人口爆発や途上国の経済発展）を踏まえて、今後、地球環境はどうなっていくのか。
- 環境問題に対する国際的取組み。
- 環境問題がなかなか解決しない政治的要因。
- 新しいエネルギー開発。
- 今、起こっている環境破壊について、また、それに対する国や企業の対応などを学びたいです。
- 私たちは何をしていくべきなのかを話し合っていきたいです。
- 先進国の公害問題が、どのように開発途上国に影響しているのか。
- 京都議定書について、アメリカの対応はこのままで良いのかどうか。
- リサイクルについて。
- 森林を再生するにはどうすれば良いのか。
- 日本の政府、企業は環境問題に対して、どのような対応をとっているのか。
- 地球温暖化は深刻な環境問題の一つで、様々な影響が考えられる。南極の氷が溶けて海面が上昇し、オランダなどの低い土地が水没してしまうといった問題や、疫病が流行してしまうといった問題が挙げられる。早急に対応していかなければならない問題である。温暖化の起こるメカニズムや各国の対策はどういったものなのか。そして、私たちはこれからどのように対応しなければならないのかを学んでいきたい。
- テーマになっている地球温暖化問題はもちろん学んでいきたい。環境情報コースを選んで色々学んできたが、抽象的なことが多かったように思う。だから、この授業で、地球温暖化以外にも色々な地球環境の具体的な事まで学びたい。
- 私は地球の温暖化とか貧しい国の状況など漠然としたことしか理解していない。どんなことが問題になっているのか詳しく学びたい。
- 今、問題になっていることを中心に、今後、自分たちができることは何なのか、どのように解決していったらいいのかなどを、この授業の皆と話し合いたい。特にごみ問題についてと食品に関することを学びたい。
- 温暖化に対するアプローチの仕方。また、解決方法とその行程。
- 現在の地球の状況はかなり環境破壊が進んでいるので、どうすればくい止められるのか、特に

森林伐採などのことについて学んでいきたい。
- 地球温暖化やオゾン層破壊、公害問題などの広い範囲（全世界）の様々な地域の実態などを知りたい。
- 温暖化は今、どこまで進んでいて、これから先どのような影響が出て、どんな地球になってしまうのか。また、その原因や対策と世界の状況。
- 今までの地球はどうだったのか、これからどのように地球は変化していくのか。
- 今、地球ではどのような環境問題が起きているのかについて学びたいと思う。そして、その問題について、国や政府はどう対処しているのか、など。
- 地球環境を学んだ上で、自分は何ができるかを考えたい。
- 地球の温暖化の解決策。
- 海外の環境問題、その過去と現在。
- 最新の国内の環境問題とその対応策。
- 地球環境について板書で学べること、そして、プレゼンなどを通じて、人の意見からも学び取りたい。現在、ゼミで環境のことを学んでいるので、ここでの授業をプラスにしたい。環境全般について学べれば良いです。
- 地球環境をどれだけきれいにできるか。地球環境のために、私たちはどのようなことをしたら良いか。
- 今まで、全く知らなかった事について、学べればと思います。
- 地球温暖化のメカニズムや地球温暖化に対する世界レベルの取組みなど、地球温暖化についてのいろいろな事について多くの知識をつけたい。
- 個人単位で地球環境にどのように対応してゆけるかを学びたい。やはり団体（NGO など）だと動くのに時間がかかるが個人だと明日にでも行動できる。環境問題を解決するには一人一人の認識と行動だと思う。例えば、日本中の人がシャワーの時間を短くするとどれだけのエネルギーの節約になる、だとか、全ての人がごみの分別を行うとごみ問題はどうなるかなど。
- 卒業論文で環境問題の法律について書こうと思っています。今、いろいろな法律が出ていると思うのですが、そのことも学びたいです。
- 地球温暖化という問題を抱える現在、私たちは個人で何ができるのか、そして、地球温暖化を引き起こしている原因とその対策を学びたいです。
- 現在、地球温暖化などによって、地球の環境が壊されていることは知っているが、実際どれ程危機的状況に陥っているのか、あまり良く分からないので、具体例などが知りたい。また、未来を担う私達が、地球環境のために何ができるのか、どんな事をしていかなければならないかを学んでいきたい。
- 自然が自然のままであることが人間の生活の必要条件であると思う。砂漠化、温暖化、森林破壊等の内容について詳しくは知らないので、その原因、被害状況等を把握したい。
- 地球を守るために、日本はどのような努力をしているのか。
- 世界は日本をどのように見ているか。
- 私たちに何ができるのか。

②半年の授業中にプレゼンを行うとしたら、どのようなテーマを選びたいですか。

- せっかく地球環境論という講義なので、グローバルな視点から見るテーマがいいです。例えば、NGO，NPO，ODA などの環境に対する配慮や取組みなどの活動など、国際的な団体、国際的な視野から環境や世界の人々の生活、健康などを考えて、よりよい努力の方向が見えてくるようなテーマがあるといいなと思います。
- 自然破壊を防ぐこと、自然との調和と NGO の援助について。
- 私は車（モータースポーツ）が好きなのですが、地球温暖化について、特に車の視点から調べたいです。
- 自分とボランティアの関係。
- 自分と環境問題との関係。
- これから何をすべきか。
- 環境保護に特に力を入れている国（例えば、ドイツなど）をピックアップして、日本との差をテーマにして考えてみたい。
- 地球環境に対する NGO の活動。
- 森林など生態系への影響（環境問題が引き起こる）。
- 環境問題と国境。
- 経済活動と環境保護は両立するのか。
- 途上国の環境悪化が進んでいる地域で、環境保護のために NGO などがどんな活動をしているのか。
- 途上国の環境問題。
- ODA の使われ方によって、環境問題を生んでいないか。
- 環境破壊の現状とそれによるさまざまな被害について、調べたいと思います。
- 企業に対して、どこまで制限できるのか。
- 先進国と開発途上国の環境問題について。
- 地球単位で考えるだけでなく、もっと小さな地域単位で考え、最終的に「地球環境」という広さで学びたいと思います。
- 地球温暖化について、原因、被害、対策など。
- CO_2を大量に排出している国家が、排出量を減少させるためのインセンティブとは何かということ。何らかのインセンティブがないと動かないと考える。
- 地球環境に関わっているかどうかは分からないが、自然保護（特に動物保護）の問題に興味があるので、地球環境問題から生じる自然保護問題について調べたい。
- 地球環境問題、環境破壊が普段の生活にどのような影響を及ぼしているか。
- ごみ問題。
- 海洋汚染か都市環境。
- 森林破壊と現在の産業の関わり、など。
- 地球温暖化。
- 貧しい国など、先進国の産業の影響で環境問題で苦しんでいる国や地域について。
- 地球の温暖化。（理由：グループで話し合いをした時、この地球温暖化について話していたためと、今注目されている話題の一つだと思うため。）

- 今年の夏は、エルニーニョ現象が起こる確立が大、と言われているので、授業で学んだことを踏まえて、解決策や対策について話し合っていきたい。
- 貧困について。環境問題で苦しんでいる人々をどうやったら助けられるかについて。
- リサイクルやリユースについて。
- 温暖化、砂漠化、かんばつ、リサイクル、エネルギー問題など。
- 今、地球は温暖化しています。オゾン層の破壊、砂漠化といった問題もあります。私たちは地球のためにどんなことをするべきかを考え、「地球環境を守りましょう」というようなテーマを選びたいです。
- はっきりとした結論が出せないような問題に対して、どのように考えているのかといったテーマがいいと思います。
- 地球温暖化のメカニズムやエネルギー消費についてのテーマを選びたいです。
- 環境のために個人レベルでできること。一人暮らしの学生が一か月でどのくらい地球のために行動することができるのかなど。
- 砂漠化は、10年後、今の温暖化と同じくらい問題になると思うので、その原因と解決策。
- ごみ、資源、リサイクル。私たちが生活していく中で、このテーマは切っても切れないものなので、調べてみたいです。
- 自然破壊をすることによって、自分たち人間にどのようなわざわいが返ってくることになるのか。
- 現在話題の温暖化についてのプレゼンを行い、時事問題として取り上げられた時、話ができるように身に付けたい。
- 先進国が途上国の自然を破壊しているという現実。

③あなたにとって「地球環境」、「地球環境論」とは何でしょうか。

- 今回、カンボジアの人々のビデオを見て、改めて自分のいる状況の苦労の無さを感じました。ビデオを見て、日本人ができる事は、お金の面ももちろんだけれど、技術の面、教育の面でも、もっと協力できるように思いました。地球の中に生きているひとりの人間として、自分の住んでいる地球の環境を改めて見つめて行きたいと思います。環境がますます重要視されていることについて、新しい学問の分野だと思うので、この講義が楽しみです。
- 地球環境保護および現在の地球温暖化の原因と自然破壊の問題だと思っている。
- 地球環境は地球上にいる全生物に関わるもので、かけがえのないものだと思います。
- 地球環境を考えるということは環境問題を考えるということで、地球環境論はその環境問題をいろいろな観点から考えることのできる場であると思っています。
- 地球環境という言葉は、テレビや新聞などでよく耳にするが、私はその意味するものを漠然としか分かっていないと思うので、この授業をとおしていろいろな意見を聞き、地球環境とは何かを考えてみたいと思います。
- 遠い存在のようて、実は身近なもの。目に見えるようになった時まで（ひどくなるまで）、気づきにくいもの。
- 人類に課せられた永遠のライフワーク。
- 日本にいると身近な環境問題は、ごみ、エネルギーなどで、地球規模の問題を感じることが少

ないと思う。しかし、世界的には大きな問題になっているので、これから、もう少し興味を持って考えてみたいところです。

- 科学が地球環境を破壊した。これから、科学は地球環境のために使われなければならないと思う。
- この授業にはとても興味があってきました。地球環境は、これからいろいろと学んでいきたいことであり、保護していかなくてはならないものだと思います。地球環境論は、地球環境を学ぶものだと思います。
- 人間が生きるために必要な事、物が、人間を苦しめている。きっと、科学技術と地球環境の保全、改良は両立しないのだろうと思う。それでも、何とかしていかなくてはならないのが「地球環境」で、具体的にどうしたらいいのかを考えていくのが「地球環境論」だと思います。何が正しいのかは分からないけれど、沢山の情報を得て、沢山考えてゆきたいです。
- 私達人間が生きるために必要な「自然の恵み」について考える時間だと思います。
- 一つの国家、一つの世代の問題ではなく、全ての国家、地域、民族、世代に関わる問題であり、また、私たちの子孫にも関わってくる問題である。私たちの子孫が豊かに生きていくためのキーであると考える。
- 生活していく上で、必ず関わってくる。将来、子供を育てる上でも真剣に学ばなければいけないもの。
- 温暖化やオゾン層の破壊など、何かしら私たちの普段行っている行為もその原因に含まれて、環境が破壊されていること。
- 生活している上で、人や動物、地球全体に悪影響を及ぼすこと。
- これから、解決および破壊や汚染を抑止するもの。(地球環境論)
- 私たち地球に住むものとして考えていかなければならない、切っても切れないものだと思う。
- 今生きている以上無視できないもの。他人事にしてはいけないこと。
- 人間が、地球に生きる一つの生命として守っていかなければいけないのが、地球環境だと思う。
- これから、地球には様々な問題が出てくると思うのですが、地球に住んでいる以上、解決策を見つけていかなくてはいけないと思います。
- 現在、暮らしが豊かになったことによって、「地球環境」や「地球環境論」という言葉が生まれたと思う。戦争や環境破壊をくり返し、地球やそこに住む生き物全てに苦痛を与えた。苦痛を与えられた人々やそれを見た人々が、このままではいけないと思い、多くの人々に地球は危険にさらされている、何か対策を考えようと訴えるために、「地球環境(論)」という言葉が生まれたと思う。
- 個人個人の意識と国の行動力によって、どのように地球環境を良くできるか。
- 地球では現在、どのような問題が起きているのかをまず学び、理解するためには過去を知る必要がある。人間が生活する上で出てくるごみの問題、大気汚染、水質汚濁等、様々な問題を知って自分一人でも出来る事から初めて行くことが解決につながると思う。
- 地球環境とは、現在、そして未来のために守り、改善しなければならないもの。
- 地球環境論とは、問題の解決への糸口になると思われる授業。
- 地球環境は地球の環境についての総合的な課題だと思います。
- 地球環境論は、地球環境について、主に理論的に学ぶことだと思います。地球環境問題解決の

ための実行は、その先にあることだと思います。
・勉強しておいて損はないもの。
・地球環境は人間が生きていくことにおいて、とても身近なことだと思います。現在は、環境問題がひどくなってきているので、地球環境においてのメカニズムを知り、それについての解決策などを考えていくことだと思います。
・とても身近にあるもの。節約とイコールでつながるもの。昔から興味があったので、常に頭の中にある。地球上の全ての人が地球環境について頭の片隅に問題意識があれば良いのにと思う。そして、環境問題の解決への貢献は、今すぐにでもできるのだということを知ってほしい。
・私たちが地球に誕生してから、生活している限り、永遠についてくる問題であり、先延ばしはできてもいつか必ず向き合わなければならないものである。
・私にとって「地球環境」とは、自分たちの生まれた地球という場所の住みやすさであり、「地球環境論」とは地球で生まれた生物にとっての地球の住みやすさを考え、論じることだと思う。
・自分の生活と深い結びつきを持っているもので、暖かくなったり、暑かったりと、気候によって気持ちも良かったりするので、特に温暖化は私にとって大切な問題です。
・助けてくれるもの。
・守りたいもの。

④これまで、地球環境について、どのようなことを学んできましたか。

	役に立ちそうなこと(A) 面白いこと(B) 関心があること(C)	役に立たなそうなこと(D) つまらないこと(E) 関心がないこと(F)
大　学	・諸外国の貧しい国について。C ・車等の排ガス規制。C ・汚染の問題。例えば流しに油をそのまま流さないとか。A ・コンビニの食品には防腐剤が多く含まれているからあまりコンビニには行かないこと。B ・温暖化現象。これから世界はどうなってしまうのか。C ・リサイクル、リユース。A ・NGO，ODA 問題。C ・地震。 ・開発途上国の現状。 ・温暖化、酸性雨、砂漠化。 ・グリーン・コンシューマー。 ・森林や動物の保護について。C ・水質調査をしてみたい。 ・地球温暖化。 ・ごみの分別。 ・環境ホルモン。 ・途上国の公害。	・特になし。 ・ごみを捨てる場所の問題。F ・自動車、パソコンの廃棄問題。F

	・NGO，ODA。 ・ゼミで環境経済学を学んでいます。C ・専門的知識を学ぶ。A ・途上国の経済発展のために自然は破壊されている。 ・リサイクル問題。（ゼミ）A ・エネルギー問題。A ・世界各国で起きている環境問題。 ・オゾン層の破壊について。 ・地球温暖化について。 ・文教大学エコキャンパスの一員になった。C ・一人暮らしのごみの分別。 ・地球温暖化。 ・砂漠化。 ・酸性雨。 ・エネルギー問題。 ・森林の減少。 ・ごみ問題。 ・世界が今、どんな状態か、いろいろな視点から学びました。A ・森林破壊。C ・地球規模の環境汚染。C ・環境ホルモンの影響。C ・開発などによる熱帯雨林の破壊。貧困のため無理な田畑の開発をして森林が砂漠化する。C ・企業の環境対策やリサイクル。C ・パソコンや車のリサイクル。C ・リサイクル問題。C ・自然保護。B ・環境ホルモン問題。C ・砂漠化によって引き起こされる人口問題。C ・環境系の授業、将来的なこと。A ・今、企業で行われている環境に対する対処方法、政策等。B ・エコキャンパス。C ・今まで学んできた地球環境問題の解決策やもっと具体的なことを学びたい。	
高　校	・化学の授業で、地球温暖化、砂漠化、酸性雨、森林破壊、代替フロンが出てきたこと。 ・公害の問題。 ・ごみの分別。A	・特になし。 ・工場による有害問題。C

- 大気汚染。C
- 海外青年協力。B
- NGO などの活動。
- 水質汚濁。C
- リサイクル。A
- 酸性雨、ダイオキシン。
- 地球温暖化。
- ごみの分別。
- 生態系の乱れ。
- 産業廃棄物。
- 環境保護に熱心な学校だったので、今ある諸問題についての基礎を学びました。A
- NGO などのボランティア活動。A
- 森林破壊。
- 高校の時、環境問題に関心を持ち、文教で環境について学ぼうと思いました。
- 自然破壊。C
- 地球温暖化。(受験のために本で) C
- 日本に入ってくる商品の背景では、アジア諸国の環境が破壊されているということ。
- 森林減少、造林について。
- 地球温暖化、ごみの分別。C
- 地域のごみ拾い、ボランティア。A
- レイチェル・カーソンの「沈黙の春」がとても面白く役に立ちました。A
- 植林。C
- 環境汚染。C
- ごみ処理問題。C
- オゾン層の破壊。
- エネルギー問題(原子力発電について)。A
- 海外でのリサイクルの実情。A C
- 動植物の生態。A
- 遠足という名のごみ拾い散歩。A
- 砂漠化、オゾン層破壊、酸性雨、といった地球の問題をさらに細かく読み進めていった。
- 音姫。教室の電気を消す。A
- ペットボトルのリサイクル。A
- 中学校で学んだ環境破壊の種類をもっと具体的に学んだ。そして、酸性雨は SO_x、NO_x、地球温暖化は CO_2 などといっ

	たように、環境破壊の直接の原因を学んだ。	
中学校	・フロンガスがオゾン層を破壊しているということ。 ・公害の問題。 ・オゾン層破壊。C ・地球の問題となっているもの。 ・酸性雨。C ・環境破壊。C ・砂漠化、温暖化、酸性雨。 ・ごみ問題。A ・森林伐採。 ・リサイクル活動。 ・大気汚染。 ・ソーラーパネルなどのエネルギー利用。 ・地球温暖化。A ・酸性雨。C ・地球の砂漠化。A ・水の汚染。C ・生物と自然科学の勉強。B ・牛乳パックリサイクル。A ・CO_2増加に伴い、温暖化になっていること。モルジブ。 ・人口の増加、地球に対しての影響。 ・地域のごみ拾い、廃品回収、ごみ焼却工場見学。A ・ごみ問題、分別の大切さ。A ・地球温暖化。C ・化学反応。B ・地球環境新聞を発行。B ・砂漠化、オゾン層破壊、酸性雨、といった地球の問題をさらに細かく読み進めていった。 ・地域のごみ拾い。A ・酸性雨、地球温暖化、オゾン層の破壊など、環境破壊の種類など。	・特になし。 ・ない。 ・生活廃水による海の汚染。F ・工場の排気による大気汚染。F
小学校、就学前	・覚えていない。 ・ない。 ・大気汚染。C ・空き缶分別。A ・ごみ拾い運動。A ・砂漠化、温暖化、水俣病、四日市ゼンソク。 ・「川の水が危ない」という本を読んだ記憶がある。 ・牛乳パックではがき作り（リサイクル）。	・覚えていない。 ・ない。 ・ごみ処理。

	・温暖化、酸性雨、オゾン、水銀等（公害病）。 ・ごみを拾う。B ・ごみ分別。A ・ベルマーク。A ・スプレーなどに使われていたフロンガスによってオゾン層が破壊されたこと。 ・地球環境の破壊に付いての学習はしなかった。 ・植物、生物に興味がありました。 ・光合成。B・ごみ問題。夢の島はあと何年で埋まってしまうか、などについて。C ・砂漠化、オゾン層破壊、酸性雨、といった地球の問題に触れた。A ・団地の住民によるごみ拾いや草木を公園に植えることを行った。A	

⑤卒業後、自分は、どのように地球環境に関わっていく（関わっていかない）と考えていますか。

- 地球環境はとても興味を持っていることなので、環境に関する職業に関わっていきたいと考えています。
- 特別に、直接、地球環境に関わっていくことはないと思いますが、一人の人間として頭の片隅にでもそれらのことが考えられればと思います。
- 省エネや、油やカップラーメンの汁をそのまま流さないこと。しかし、いくら個人でやっていても、飲食店などでは大量の油などを垂れ流しにしているから、いくら個人で頑張っていてもあまり意味がないと思います。一つの飲食店では普通の家庭の何倍もの油などを流しているからです。一体どうすれば、水質汚濁について解決できるのでしょう。
- 一人の努力、工夫などで、大きな力につながると思います。ごみをなるべく増やさない、出さない、分別をしっかりする、など基本的な事をきちんとやっていくと思う。残念ながらボランティア（青年海外協力隊）などに行くチャンス、時間は、今後ないと思うので、せめて自分にできる物事、環境問題に対し、関心を高めていきたいと思う。
- 地球の環境は絶えず変化していくと思うので、これからも密接に関わっていくと思います。
- ごみの分別など、身近なことを始め、小さな事でも、少しずつでも、地球をこれ以上汚さないようにしたい。それから、温暖化やオゾン層の破壊など、問題が大きくなって手遅れにならないように、今はまだ見えてきていない環境問題も見逃さずに気付いていきたい。
- 今とあまり変わらないと思うが、車も使うし、電気も使うから大気汚染を手伝ってしまうことになる。しかし、自分の中で意識をより高めて、そうしない努力をしたいと思う。
- 生活する上でも環境について関わっていくと思う。ごみ分別、ボランティア運動等を通して関わっていきたい。
- 環境に携わる仕事に就きたいと考えています。ごみ問題や食品に関することを卒業しても続けたい。
- 小さなことでも環境負荷を考え、社会人として環境保全のために何ができるのかを考え、行動

していきたいと思う。
- 水質調査に参加したり、街・地域という形で考えていきたい。茅ヶ崎市や藤沢市には、たくさんの海に関する団体があるので。
- 生活の一部として、ごみの分別や節電など。
- 企業に就職するつもりですが、例えば、商品のパッケージをリサイクル可能なものにするようにしていきたい。
- 就職できれば、その企業内で環境保護（ISO の取得など）に関わっていきたいと思います。できなかったら、ボランティアとして現地で活動することも考えています。
- この授業を学ぶことによって、NGO に入るとか、環境問題の原因などを研究するといったことはできないが、自分でもできるようなことを学び、それをやっていきたいと思います。
- 自動車について地球環境のために様々な規制ができると思います。それが多少不自由なものになっても、私たちはそれに協力していかなければならないと思います。
- 帰国して、故郷の環境保護について、取り組みたいと思います。
- 現在もしていることだが、ごみをこまめにリサイクルすることによって、自然破壊を少しでも止めることができ、地球環境に関わっていけると考えています。
- お金を貯めて、ECHO CAR を買う。
- 卒業後は専門学校でさらに環境のことについて学び、企業の環境部で環境監査や分析などの仕事に携わりたい。現在、環境計量士の資格の勉強中で、将来的には環境コンサルタントの仕事もしてみたいと考えています。
- 公務員や企業の環境部門で働くことができれば良いと考えています。そして、もっと多くの人々に環境問題に対して危機感を持ってほしいです。
- 人間は地球に住んでいます。地球環境については人類にとっての重要な課題だと思います。私の専門は環境ビジネスで、地球環境と関連があると思います。まず、ごみ問題について自分から注意したいと思います。次に、砂漠化を防ぐため、造林をしたいと考えています。
- あまり、自分と地球環境についてのかかわりを考えてくることはなかったが、普段の生活の中で地球環境の改善に役立つことができればと思う。ごみをなるべく最小限に抑えるような暮らしを心がけたい。また、大学では、環境情報コースを選択したので、これを機に、環境についての知識を広げ、その知識を有効に生かしていきたいと思う。
- ごみの問題、資源の問題など、生活、仕事をしていく上で、考えていかなければならないと思います。
- 私は、森林破壊に興味があるので、森林破壊に関する様々な問題を調べたり、森林破壊によって起こりうる色々な問題に取り組んでいきたいと思っています。
- 何ができるか分からないけれど、身近なことをやっていきたい。
- 日常生活にも地球環境に関わるものが多いと思う。例えば、ごみのリサイクルや省エネなどは、一人一人が気をつけてだんだんと改善されるものなので、自分に出来ることはしたい。また、これから国際協力の仕事に関わりたいと思っているので、途上国の環境悪化は支援国の責任でもあるため、そういうことを考えていきたいと思っている。
- 個人でできることを行う。一人一人が小さな事からコツコツと！
- 物を無駄にしない。

- ごみを減らす。
- 家庭内でのリサイクル。
- フリーマーケットの活用。家に眠っている服、小物を売る。今年に入り、5万円ほどを売り上げました。!!
- リサイクル用品の活用。
- ごみをきちんと分別する。(ex. 茅ヶ崎市：①ビンカン、②ダンボール、③飲料用紙パック、④ペットボトル、⑤古紙（本、雑誌、新聞)、⑥衣類)
- 地球環境といった分野は広過ぎて、すべてに触れることは困難だと思う。しかし、私達が今、身近にできるごみ分別といったリサイクル問題は当たり前に取り組むべきことだと思う。また、環境ホルモンやあらゆる廃棄物に関する問題などが引き金となり、野生生物は異常をきたしている。したがって、その野生生物問題に対しては、常に考えていきたい。
- 今、社会的にエコロジーを重視している傾向があり、企業の中でも取り入れている会社がどんどん増えてきている。リサイクルはもちろんのこと、環境にやさしいものを従来のものに代わって生産してきている。現在は、大学で環境についていろいろな方面から学ぶことができるのだから、それをもとに、考え、行動していきたい。
- 地球環境について本当に漠然としか分かっていないので、もっとしっかりと知識をつけ、ドイツやスイスなどの環境保護の進んでいる国々に、自分で行ってみたいです。そして、学んだことを生かして、自分の地域でリサイクルの習慣化に携わっていきたいと考えています。

資料2　地球環境論 B のアンケート集計結果

①この授業で何を学びたいですか。

- 日本の環境や問題だけではなく、他の国、世界で起きている問題にも目を向ける、考えることができたらいいと思います。知っているようで意外と知らないことをたくさん発見できたらいいです。
- 授業概要に書いてあったが、政治学、環境経済学、環境社会学、環境思想、環境倫理など、様々な分野から地球環境を見ていきたい。地球環境は、様々な分野の統合だと思うので、このような分野が、どのように地球環境に関わってくるのかを学びたい。
- 身近な環境問題を学びたいです。(自分たちは環境改善について何ができるのだろうか)
- 現在、地球が抱えている環境問題と、それぞれの問題に対して各国がどのような対策をとっているか。
- 地球環境問題の現状とそれに対する社会の取組み。
- 前期で今までの世界での環境問題に対する取組みの略歴を学んだので、後期は具体的な解決方法と実現可能な技術、NPO や NGO の活動を学びたいです。
- 前期では様々な環境問題を学び、基本的な地球環境について勉強できた。この前、TV で見たのですが、セネガルやエチオピアでは、以前は川や海であった場所が砂地になっていて、砂を掘ればうわずみが少しずつ出てきて、人々はそれを汲んで生活用水にしているということでした。他にも、たびたび以前は川や海であったのに、今はまったく水がないという状況を TV で報道しています。このような現象は地球のどのような地域で起きているのか、またどれ程増

えてきているのか、解決策はないのか、具体的に知りたいです。
- 環境問題についての改善策。
- 地球環境問題が起こる上で、どんな社会現象が起こるか、またそれを改善するにはどうすればいいのか、ということを学んでみたいです。
- 前期では、ゴミ問題のプレゼンをしたわけですが、もう少し詳しく分かり易く説明できればよかったなと思いました。後期の授業では、さらにごみ問題について深く見ていきたい。
- 私は政治や経済に興味があり、現代の政治に環境問題は不可欠だと思います。そこで、環境問題に対する基本理念や要因、対策（日本と諸外国との比較）を学びたいです。
- 環境保護と経済活動は両立するかということ。環境問題の地球環境に対するもの以外の側面（政治・経済とのつながり、貧困と環境悪化の関係）。
- 環境問題にどう対処していっていければいいのか学びたいです。テレビなどで大まかなことは日常で知ることができますが、もっと詳しく、環境問題に対する責任を持って勉強をしていきたいと思っています。また、問題について、政治的な立場にいる人、政治家はどんな行動をとって、どんな考えを持っているかも学び、現代社会の中での環境問題も学びたいです。
- 環境と社会を結びつけて、グローバルな視点から考えていきたい。
- 地球環境問題を解決するための、様々な視点から見た解決策、改善方法を学んでいきたい。また、その解決策などをどう市民や企業に取り組ませていくのかなどについても学んでみたい。
- 地球環境論ということなので、これから3年生になって専門の勉強に入る前に、環境というものを幅広く見るために、地球環境論を取りました。
- 地球環境問題の中でも特に、この問題を解決する上での科学技術の研究開発の必要性について学びたい。
- 環境問題を解決するために、どのような取組み、議論がなされているか。また、我々個人レベルでは、何が出来るのか、広く環境問題を学びたいです。
- 環境問題を根本から解決する方法、またはそれに直接つながるような考え。

②半年の授業中にプレゼンを行うとしたら、どのようなテーマを選びたいですか。

- リサイクル（ごみ）の取組み。
- 人間が地球環境論を考えるまでのプロセスをやりたい。環境破壊はなぜ起こるのか、起こさなければならないのかを、公害を起こす側と被害者の両方の立場から、プレゼンを作成したい。
- まだ分かりません。
- 環境問題が及ぼす社会的、経済的影響。
- 海が好きなので、温暖化による海洋への影響なんかいいかも。
- 公共事業による自然破壊（特に干潟の消失など）
- 河川や海域の消失の問題について。また、逆に、水位が上がり、その土地に住めなくなってしまっている地域と比較したり、関連性を考えてみたい。
- 発展途上国への上下水道の普及を含む衛生の提供をするためのNGOなどのはたらき。
- 自分の住んでいる街（富士市）の大気、水質汚染について。
- 地球温暖化やオゾン層の問題といった、自分の身近な所で起こっているが、日常の生活ではそれに気がつかないような問題を考えてみたいです。

- ゴミ問題、環境汚染など。
- 現代、日本における環境問題対策。
- 各国の様々な経済的手段について（例えば、各国のレジ袋税などについて）。
- 環境保全についてなど。
- 環境ビジネス。
- エコツーリズム。
- 環境問題を様々な視点からとらえるために、いくつかのグループに分かれて、それぞれの視点（ex. 民間、企業、経済的、社会的 etc.）から見た環境問題についてプレゼンを行う。
- 発展途上国の環境問題。
- 環境教育について。
- 地球環境問題を解決していくための科学技術について。
- 環境問題と科学技術の関係。科学技術が環境問題を引き起こしたのに、使わなければならない理由など。
- 環境と企業。

③あなたにとって「地球環境」、「地球環境論」とは何でしょうか。

- 地球環境というと規模が大きすぎて、他人事のように感じてしまう。もっと知る、自覚するなどしていく努力が必要だと思っています。
- 私たちの生活は科学技術の進歩によって便利になってきたが、その反面、地球環境が犯されている。これからの時代、自分自身の利便だけではなく、地球環境のことも気にしなければ、今後どうなるかわからないことになると思う。
- 「地球環境論」とは地球環境を改善するためのキーとなるものだと考えます。
- 普段はあまり環境とかを気にしたりしないけど、心にとめておかなければならないものだと思う。
- 「地球環境（論）」は、大学に入ってから取ってみたかったものの一つ。
- 一生関わっていくもの。人間が技術や発展のことばかり考えてきて環境を甘く見てきた過ちが今になって分かった。
- 地球上に人類が誕生してから我々が生活する今までに、人間が地球に対して行った「つみ」を知ること。そして、知った上で、何ができるか、何をしなければならないかを学び、考える勉強が地球環境論だと思う。
- 私にとっての「地球環境論」は、地球に住む人々すべてが快適にすごせる環境を取り戻すために議論し、努力すること。
- 自然の恩恵を受けて人間は生きているはずなのに、人間は自然の力に頼りすぎ、今、自らの首を絞め、破滅へと追いこまれている。早急に、地球を守るという意識を、各々が持たなければいけない。
- 世界的な視野を持ってするものであるものであると同時に、それぞれが一人ひとりの意識の中に持つべき考え方。
- 見過ごすことができないもので、生物が生きていく上で非常に大切な問題。
- 地球上で生活する上での最低限であり、暗黙のルールであり、マナーである。

・今、一番知らなければならないこと。そして、今、一番行動しなければならないこと。
・たくさんの人間が暮らす地球は、みんなの物であって、その環境を守っていく責任が私達にはあると思うので、「地球環境論」は絶対勉強するべきだと思います。
・主として、自然（環境）に対して、人がどう動いているか、どう動くべきなのかを考えていく分野だと思う。
・日本の環境問題だけではなく、地球規模で見た環境問題で、それについての解決策などを考えるもの。
・私にとって地球環境論とは、地球全体として見る幅広いものであり、国々の様々な文化や生活環境ということもあって、全体を一部と両方の視点で見ていくようなものだと思ってます。
・人間が破壊してしまった地球環境を、人間がもとに戻すようにすること。
・全世界の人が考えなければいけない問題。
・自分にとって、地球環境とは、周囲の環境のこと全てであるし、他の人もそうだと思うが、地球にとっての環境のことを地球環境としたい。

④これまで、地球環境について、どのようなことを学んできましたか。

	役に立ちそうなこと(A) 面白いこと(B) 関心があること(C)	役に立たなそうなこと(D) つまらないこと(E) 関心がないこと(F)
大　学	・森林破壊 ・酸性雨 ・自動車（排ガス）などによる大気汚染 ・エネルギー問題 ・ごみ問題 ・環境破壊に行き着くまでのプロセス(A) ・各企業が環境問題について考え出し、政策を立てていること(C) ・グリーンコンシューマー(A) ・京都議定書 ・酸性雨(C) ・砂漠化(C) ・地球温暖化による水位の上昇(C) ・一人暮らしのゴミの分別(A) ・環境ビジネスについての勉強をゼミでやっている ・ゼミ（環境経済学）(A) ・地球環境論A(A) ・杉並のレジ袋税(C) ・エコキャンパスの活動があると知ったこと ・ゴミの分別がきつくなってきたこと ・オニヒトデの除去でさんご礁を助けたいと思った	・ディープ・エコロジー

	・エコキャンパス活動 ・エコキャンパスの活動(A) ・ゴミ問題、紙ごみ、たばこ、電気の省エネ運動 etc. (A) ・地域イベント(B) ・エコキャンパス ・環境の南北問題	
高　校	・地域のゴミを回収した(B) ・小中高と地球環境学に直接関係する授業はなかったし、本を読むことも嫌いだったため、確かな知識、経験というものはありません ・酸性雨によって住めない街 ・森林破壊(C) ・ゴミ処理問題(C) ・大気汚染(C) ・水質汚染(C) ・土壌汚染(C) ・ゴミ問題のことを知って関心を持った ・石油がなくなる日がくることが分かった ・海洋自然 ・トイレの音姫(A) ・ペットボトル回収(A) ・自然（海など）に興味があった ・化学の授業で地球温暖化、オゾン層の破壊なとについて学んだ ・節電	○工場による公害(F)
中学校	・オゾン層破壊や温暖化について具体的に学んだ(A) ・空き缶のリサイクル(A) ・分別の仕方(C) ・水の汚染(C) ・生活廃水による水の汚染(C) ・地球温暖化(B) ・大気汚染(C) ・温暖化、砂漠化、環境汚染などの地球環境問題を学んできた ・フロンガスのオゾン層破壊について討論、授業 ・リサイクル活動 ・地域のゴミ拾い ・自然（海など）に興味が合った ・地理、気候について ・砂漠化	

	・大気汚染 ・ゴミの分別、リサイクル	
小学校、就学前	・公害について学習した(A) ・リサイクル ・牛乳パックのリサイクル(B) ・地域のゴミ拾い ・オゾン層の破壊(B) ・森林破壊(C) ・温暖化、砂漠化、環境汚染などの地球環境問題を学んできた ・学外のゴミ拾い ・牛乳パックではがき作り ・地域のゴミ拾い ・海岸清掃 ・ゴミを捨てない	

⑤卒業後、自分は、どのように地球環境に関わっていく（関わっていかない）と考えていますか。

・直接、環境の仕事にはつきませんが、ゴミやエネルギーなどの問題は考えていかなければいけないのかもしれません。
・これから特に環境問題に関して気を使わなければいけない時代だと思うので、小さなことからでもやっていきたい。自動車の使用回数を減らしたり、ゴミの分別を積極的にやっていきたい。また、自分たちの子供にも、環境問題の意識を小さなことから教えることも大切だと思う。地球環境は一人ひとりの意識改革によって改善していける問題だと思う。
・あらゆる業界、職種においても、地球環境と関わることは避けることはできません。私たち一人ひとりが環境に対する意識を高め、環境負荷を考え行動していくことが重要だと思います。
・自分一人の力ではなにもできないけれど、とりあえず身の回りのゴミ拾いなど小さなことをコツコツしていきたい。
・できれば、地球環境もしくはlocalな環境に関係したお仕事をしたいとただ漠然と思っているのですが、どういう仕事があるかサッパリです。
・製紙会社に勤務する予定なので、森林破壊、大気汚染、水質汚染、リサイクル、地球環境に大きく携わっていく。
・日常生活（ゴミ分別など）で関わっていくと思う。藤沢市は10月1日からプラスチックの分別が始まるので、がんばって取り組みたい。
・地域活動に参加。
・身近なところでは、低公害車に乗る、節電・節水を心がける。
・将来的な目標では、街づくりNPOみたいなものに参加、もしくは設立して、道端や空き地に花を植えて、ガーデニング街を作ってみたい。
・今は、運転免許を取得していないのですが、卒業後取得したとき、車の排気ガス問題といった地球環境に関わっていくことになりそうだ。その他にも、家族を持ったとき、現在よりもゴミが増え、リサイクルをきちんとしなければならなくなると思う。卒業後は、今よりも地球環境

問題に関わることが多くなり、今よりも真剣に取り組まなければならないと思う。
- 未来のことはまだわからないが、直接関わるにしろ関わらないにしろ、自分が一人の地球人という意識を持って、小さなことでもいいから地球環境の役に立てるようにしたい。
- 前回と同じく、環境に関する仕事に就きたい。主に、自然環境に関する仕事に就こうと思っている。
- 将来私はバス会社に勤務（運転手ではなく）したいと思っています。近年、バス会社に求められている課題は、「福祉と環境対策」です。もし、バス会社に入社した場合は、直面すると思います。また、日常生活でも、省エネ製品やリサイクル商品、低公害車などと、切っても切れないと思います。
- 大学の授業などで学んだ経験を生かして、少しでも自分のできることから環境保護にとりくんでいきたいと思っています。
- 今の段階では、自分がどのように何をしたらいいのか、あまり分かっていないので、これからの勉強によって積極的に行動するか、このままになってしまうかのどちらかだと思います。今は、ゴミの分別や節電くらいしかしていないので、これからできることが分かればやっていきたいです。
- エコツーリズムをしてみたい（世界の自然を見てみたい）。
- 今はまだ、将来、何をやりたいか明確ではないが、何か環境に関わる仕事につきたいと思っている。また、私生活でも、リサイクルに心がけたり、ゴミの分別に気をつけたりしていきたい。
- 環境というものに直接関わっていくのかは分からないけれども、間接的にでも関わっていくような生活や仕事はしたい。
- 具体的には考えていないが、興味があるので、地球環境に関わっていくようにしたい。
- 仕事として環境に関わっていくか分からないです。就職先として、「環境」は仕事がほとんどないのが現状だと思っています。出来ることならば、地方公務員になり、市の行政面から関わっていけたらと思います。
- 地球環境にとってよいことを、個人でできることはやろうと思うが、それだけで地球環境が良くなるとは思えないので、将来の立場によっては何かをしようと思う。

資料3　国際環境協力論のアンケート集計結果

①この授業で何を学びたいですか。

- 環境協力を行っている国際機関についてよく知りたい。
- 日本の環境問題だけではなく、もっと広い範囲の環境の現状を知りたい。また、現在、世界中の環境協力活動はどのように行われているか。JICA について。
- 国際環境協力について私はあまり詳しくないので、この授業を採ったことで多くのことを学びたいと思います。
- 日本と他国との協力関係。ビデオ（国際連盟設立時の規約に人種差別撤廃に関する内容を盛り込むかどうか）で見たような差別問題等にも触れてみたい。
- 開発途上国における環境問題とそれに至るまでのプロセス。また、それらを改善しようとする機関とどのような措置がとられ問題が解消していくのか。また、問題解決後の新たな問題の発

生について。あるいは、持続可能な社会開発のメカニズム、事例を徹底的に追求したい。
- 世界の人々が環境についてどう考えているのか。また、どのようにすれば環境を良くするために人々の意識が変わるのか。
- 温暖化について。
- この授業計画の中で、特に国レベル、地方レベル、民間企業、NGOから見た国際環境協力に注目している。この問題には前々から興味を持っているが、今の詳しい現状はあまり分かっていないので、詳しく知りたい。
- 「日本の環境問題とその克服の歴史」の中で、「公害から環境問題へ」という項目に興味があります。以前から、公害と環境問題の違いは何なのかと思っていました。また、日本の国際環境協力の実態と成果についてを学びたいです。
- 今，世界で問題視されている環境の汚染、破壊の実態を、なぜそれを行わなくてはならないか等の理由を含めて、全部知りたいです。意外と知らないこととかもありそうなので。地球レベルの環境問題を改善してゆくには何世紀もかかりますが、企業等の各団体と、私達の個人個人がどうしていったら良いかしりたいです。
- 実際に国際環境協力をするには、何が必要で、どのようなことをするべきなのか。求められている援助に対して、我々は今、何をするべきなのか。
- 国際環境協力はどのような分野があるのか。国際環境協力が役に立つとしたらどういうところか。
- 国際的な環境問題に取り組むにあたって、どんな弊害が起こるのか。また、個人レベルで国際的な環境問題に取り組むにはまず何をしていけば良いのかを学びたい。
- 日本はどのような技術支援ができるのか。
- 日本は他国から見たらどのような国なのか。また、どのような援助を行っているのだろうか。
- 日本だけでなく世界の環境について学びたいと思いました。
- 特に、日本が環境問題に対してどのような国際協力を行っているのか。その成果は出ているのか。日本の国際協力の歴史。現在、世界では、どのような環境問題が問題視されているのかが知りたいです。
- 世界経済の過去の事情と、人物の取り引き、駆け引きを見てみたいと思う。
- 国益と環境保護の問題。
- 基本的にはどのような協力を行っているのか。
- 日本と他の多くの国々とのつながり。歴史などを通じてもっと詳しく知りたいです。
- 授業内容に興味を持ちました。まず、自分は日本人でありながら環境関係の過去の日本のことを全然知りません。また、現在の状況も分かりません。そして、国際的な協力についても知りたいです。知識として学び、考えて行きたいです。
- 環境問題に取り組む上で、国際協力は不可欠であると思っているが、その方法や今の現状をあまり把握できていないので、問題点等を含めて学んで行きたい。自分が国際環境協力にどのように関わっていけるか。
- 国際協力とは（実態)。どんな活動がなされているか（過去、現在)。環境への影響はあるのか。その協力とは。
- 世界でどのような環境破壊が起こっていて、それを他の国がどのように助けられるのか等を学

びたい。
- 世界でどのような協力を行っているのか。また、日本ではどのようなことができるのか。
- 環境という媒体を通し、国と国との関係や歴史的背景を学びたい。
- 日本は国際的な場において、環境分野でどのような活動をしているのか。また、その問題点。援助額が日本は多いと思うが、本当に有効に使われているのだろうか。
- 環境問題に興味があり、ゼミなどで日本の環境問題に関してはふれているので、ぜひ世界的な環境問題への取組みや、地球規模での環境問題を学び、考えていきたいです。
- 私は、環境問題についての知識があまりないのですが、日本国内だけにとどまらず、国際的には環境問題がどのように意識されているのか学んでいきたいです。
- NGO、ボランティア、NPO など、実際は何事をやっているか、組織のメンバー構成を知りたい。

②半年の授業中にプレゼンを行うとしたら、どのようなテーマを選びたいですか。

- グリーンピース、緑の党についてなど。
- 私の出身地の中国北東部の環境問題です。
- 地球温暖化について。
- 歴史を通した協力関係。
- Sustainable society,　持続可能な社会について。
- 世界の環境をより良くするために、日本は何をやってきたのか。また、世界は何をしているのか。
- 環境問題がもたらしたこと。
- 国際環境協力に興味を持っているので、それについて行いたい。
- 環境問題の変遷について。
- 酸性雨が発生した過程とその被害など。
- 今、援助が必要とされている国の実情とその対策。実際にどのような援助がされてきたかについて。
- 授業が進む中で選びたい。
- 国際協力の弊害について。
- 国際協力を誰もが「協力」と思っているのか。
- 先進国日本として、日本が歩んできた公害や環境破壊を踏まえて、開発途上国にどのような援助をしたら良いのか。
- 環境について本気でこれからの世界をテーマにしたいと思っています。
- 日本が環境問題に対してどのような国際協力を実際に行っているのか。その成果は。
- 日本と世界の駆け引き。
- いかにして国益を守り、環境保護をするのか。
- ヨーロッパの環境政策について。
- 世界で協力している団体（ex.　WHO,　UNICEF）が行っていること。
- 開発途上国の環境問題。
- NGO の活動。環境問題。

・具体的にはまだ決まっていません。ただ、日本がどのように環境に対して国際協力しているのかを知りたい。
・授業を通して興味を持てるものがあったらそのとき考えたい。
・世界中の貧困国や富んだ国によって、どのように生活状況が異なるか。
・NGOの活動。ぼんやりとは分かるような気がするが、具体的な活動を私は知らないから主に環境問題に対する活動を知りたい。
・日本の世界規模での環境に対する考え方や取り組み方と、各国ではそれらがどのようなものなのか比較し、どのようにするのが最善策なのかを話し合いたい。
・外国ではどのように環境問題に取り組んでいるのか、途上国の環境問題についてなど。
・貧しい国の子供の教育、生活の状況を調べて、改善できる道を探りたい。

③あなたにとって「国際環境」、「国際環境協力」とは何でしょうか。

・現在、人類が最も早急に対策を強いられる問題。
・「国際環境」というのは一つ一つの国の環境だけではなく、地球の全体の環境である。経済発展の不均衡と各国の環境問題とは原因が異なると思う。先進国が途上国の環境問題に関して協力するのが「国際環境協力」だと思う。人類には一つの地球のみがある。地球上の人類や他の生物等は「共生」している。
・私はまだどういうのものが「国際環境」や「国際環境協力」なのか分からないので、これから学んでいきたいです。
・国によって環境に対する方法が違うと思う。全世界で統一していくべきだと思う。国単位、市単位でなく、いいことをしていけばいいと思う。地球全体で動いてほしいと思う。紙が足りないといって他国で木を切ったりすることは平等ではないと思う。
・多くの国際機関は、インフラの整備等、とても大きな事柄に目を向けがちである。しかし、我々の周辺には様々な環境問題が埋もれている。特に，中国，インドなどを中心にアジアにおける環境問題は深刻で、その周辺にまで影響を与える状況にある。文字通りの国際環境協力であるならば、一つの国がその他周辺諸国にまで影響を与える問題を解消するものでなくてはならない。国際環境とはつまり、国境をまたがって影響を及ぼすまたその可能性を持つものと私は認識し、国際環境協力とはそれらを共に解消しようとする行為と私は認識する。
・「国際」と言われると大きなものに感じるが、問題は人間一人一人にあると思う。個々の人が自分勝手な事をする事により、国際環境も悪化し続けていく。私にとっての国際環境協力は、自分が環境についての知識を高め、環境に良いことをする事。
・国際環境協力という問題は、私達日本に暮らしている分には目をつぶろうと思えば目をつぶることもできる問題ではある。しかし、やはり同じ地球人として、きちんと向き合って考えなければならない重要な問題だと思う。
・国際環境は、アジアの木材を伐採して割り箸を作ったり、エビを大量に輸入することによってそれらの現地の環境に変化を及ぼすこと。国際環境協力は、上のような地域に行き、それまでの環境を取り戻そうと援助すること。
・地球の人類が関心を持つべきこと。
・エネルギーを消費する分、地球にもたらした負担を責任を持って対処すべき。

- 同じ人間である仲間を共に助け合うこと。お金などの利益に関係なく、人間として支え合っていくこと。お互いの情報、知識を共有し合うこと。
- 国際環境は世界の環境問題。国際環境協力についてはNGO, NPOしか知らない。
- 国際環境とは、国と国にまたがる大きなくくりでの環境のことや、他国と共通の環境のこと。国際環境協力は、それを他国と協力して改善させていくことだと思います。
- 環境というとまだ環境問題を連想してしまう。環境のいろいろな意味を学んでいきたい。
- 私にとって「国際環境」とは、自国のことだけを考えずに、国境を越えて地球規模で環境問題を考えること。また、「国際環境協力」とは全世界の人々がより豊かに生活ができるようにお互いに助け合うこと。
- 大きく地球環境を考えていくことなのだと思います。
- 環境問題が問題視されている国々に協力して、問題を共に改善していくこと。
- 今はまだ、「国際環境」、「国際環境協力」と聞いてもはっきりとしたものが出てこないので、これからはっきりさせようと思います。
- 各国が「国益」というものを超え、世界利益（世界保護）（環境保護？）のために協力し合うこと。
- 世界の問題。例えば，ヨーロッパの国々ではある国が汚染することによりその国の隣、あるいは近くにある国などにも影響を与えることになる。アジアでもそれば一緒である。そのことによって各国の協力などが必要となる。
- 「国際環境」とか「国際環境協力」などという言葉を聞いてまず頭に浮かんでくるのは、海外青年協力隊のようなボランティアのことでした。でも、それだけではないと思います。日本と多くの国々との関係をしっかりと理解して、お互いに助け合うことだと思います。同じ地球上に住んでいる以上、知らないではすまされることではないと思いました。
- 「国際環境」は国際的な環境。Internationalではなくて、環境を一人一人が考えること。「国際環境協力」は、国際的に環境問題に対して協力して対応していくこと。
- 各々の国にそれぞれの主張や立場があるかもしれないが、「地球」を一つの場所と考え、良い方向へと持っていくこと。
- 国際環境とは一つの国だけではなく、地球全体のものだと思う。協力とは他国のためにすることである。
- 環境については、世界で今、最も考えなければならないことの一つである。国際的に協力できるものがあれば大いにしなければならない。
- 国交を深めるもの。環境を良いものにする時に生ずる援助によって、後進国と先進国との結びつきも深まると思うので。
- 人ごとではないこと。国際という視野で考えると、つい自分を排除しがちだが、世界の人一人ひとりが環境意識を変えると国際環境も良くなるのではないかと思う。環境問題がグローバル化したからこそである。
- 日本だけや、各国がそれぞれ単独で取り組み、解決できるものではなく、多くの国々が先進国を中心とし、途上国のことをきちんと考えた上で協力し、解決策を講じていくもの。
- 環境問題は先進国に限らず途上国の中でも起こっている問題であり、それをどのように解決の方向へもっていくかが国際的な環境問題のテーマであると考えています。

・先進国が途上国に対して援助すること。

④これまで、国際環境協力について、どのようなことを学んできましたか。

	役に立ちそうなこと(A) 面白いこと(B) 関心があること(C)	役に立たなそうなこと(D) つまらないこと(E) 関心がないこと(F)
大　学	・地球温暖化。C ・ごみ問題。A ・准河、はん陽湖、太湖など大規模な汚染問題。 ・特になし。 ・国際学部の講義。 ・環境をお金で売買する。(排出権取引のこと？)　C ・温暖化。C ・環境社会学、地球環境論。A B ・ボランティア。C ・異文化を理解すること。 ・ODA について。A ・日本の協力の仕方。C ・国際コミュニケーション。C ・トヨタやホンダの車のエンジンやハイブリッドカーの開発。 ・ODA について。C ・WHO について。A C ・国際コミュニケーション論で国際協力っぽいことは学んだ。おもしろかった。 ・あまりない。 ・企業や政府の環境問題の取組み。A ・お金だけの援助だけではなく、本当に必要な求められている援助をするべきであること。 ・日本は途上国に ODA の援助をしているがその援助の全てが途上国に回っていないと聞いた。 ・あらゆる厳しい現実を見せつけられた（難民、内戦、貧困、etc)。また、その背景にも触れた。A ・水質汚染について。A ・ごみ問題について。B ・電気をこまめに消す。A ・水のむだ使いをしない。A ・医療ごみや、パソコンごみ等について。また、環境問題における倫理について。 ・ダブルスタンダードについて。	・特になし。 ・CO_2とか数学、理科系のことはキライ。

	・環境ビジネス。C ・企業の環境活動。C ・環境経済学。 ・国際学部の一員として、関心があるべきだし勉強したほうがいい。C ・様々な機関があるということ。A ・たくさんの形で国際協力できるということ。A ・環境について企業がどのように関わっているのか。A ・環境問題について、文系の視点から学んだ。B ・アジアの途上国へ日本が環境問題を輸出していること。C ・エビの養殖。C	
高　校	・春に植林した。 ・特になし ・地理の授業。 ・貧困国への金銭的、物質的援助。 ・英語の授業でボランティア活動などのこと。A ・歴史の授業などで外国とのつながり。C ・オペック。 ・英語のテキスト。C ・外国人とのコミュニケーションの大切さ。 ・NGO,　JICA の大まかな活動内容について学んだ。A ・必要な分のごみ袋だけもらう。A ・ごみ袋はもらわない。A ・ほとんど授業では触れなかった。 ・授業では取り扱っていない。 ・英語を深く学んだ。A ・アフリカなどの国の食料や衛生問題について。C	・特になし ・資源について。F ・小中高までは遊びとか勉強に忙しくて、関心を持っていなかった。F
中学校	・公害問題。C ・酸性雨。B ・砂漠化。C ・近くの製紙工場の排水臭が印象に残っている。 ・地球温暖化。 ・英語の授業で外国の話。A ・国際ボランティア。A ・英語のテキスト。B ・国際交流を通して、いろいろな国のことを知った。 ・中学の先生が青年海外協力隊に参加してトンガに行っていた。その話は面白かった。B ・授業では取り扱っていない。	・特になし ・オゾン層について。E

	・地球の環境問題について学んだ。A ・水俣病の被害について。C	
小学校、就学前	・公害問題。C ・特になし ・地球温暖化やオゾン層破壊などの環境破壊について（簡単に） ・ごみ処理場見学。C ・自動車工場見学。C ・NGO 等の単語を社会で覚えた。A ・ごみはごみ箱に捨てる。A ・きちんと掃除する。A ・下水処理場。 ・ゴミのリサイクルについて。A ・ソーラーカーのプラモデル作り。B	・特になし

⑤卒業後、自分は、どのように国際環境協力に関わっていく（関わっていかない）と考えていますか。

・関係しない仕事についたとしても、その立場でできる環境に配慮した活動をしたい。
・自分の母国、中国の環境を良く研究して、いろいろな環境問題をどのように解決するかを研究するのが一番良いと考える。中国の環境問題を解決すると、世界の環境に影響を与える。また、JICA について良く知ってから、中国に同じような組織を作る可能性を検討したい。
・まだ、自分が将来何をするか分からないです。
・卒業後は、特に国際環境協力に関わっていくつもりはないが、知識として知っておくことが大事かと思い、この授業を受講しました。
・今のところ、青年海外協力隊として環境に携われる仕事につきたいと考えています。とにかく、大学で学んだことを生かせる仕事につきたいです。
・具体的なことは何も決めていない。が、いろいろな分野での「環境」は今、私にとっては一番大切なことだと思うので、今大学で学んでいることを忘れないように身につけて何らかの形で生かしていきたい。ボランティアはおもしろそう。私は世界平和を願いたい。平等を望んでいるので、それに近づくためのことが見つかったらいいなと思う。
・ごみ対策や二酸化炭素削減等の身近なこと（小さなこと）をしていく。それは家の中からか社会の場でか、仕事としてかは分からないが（できれば仕事で）関わっていきたい。
・機会があれば参加したい。現地での長期のボランティア等への参加は難しいかもしれないです。
・国際という大々的なものではなく、まずは自分の身近なこと（油の捨て方、資源回収、ごみの分別）を通じて、環境協力に携わっていきたいと考えている。
・どこに就職するかなどによっても違ってくると思うのですが、今の時代はパソコンなどのコンピューターがとても発達しているので、主にはそれらを使って多くの国々とかかわりをもっていくことができると思っています。日本は日本というものではなく、いつ、どんな時にどんな場所にいてもすぐに通信ができ、世界の人々がみんなで世界のものを作り上げていくことができるのです。具体的に何とは言えませんが、そういったところに関わっていきたいです。
・国際環境協力と関連があるか分からないけれど、いろいろな国の人と関わっていきたいなと思

う。
- まだよく分からないが、何らかの形では関わっていくと思う。今の社会では、どんな仕事でも環境問題が必ず関わってくると思う。
- できれば、援助を求めている国々へ実際に行って、現場の状況を目で見て、肌で感じて協力してみたいと思う。
- 私は環境の分野に興味があるので、国際環境協力ということについて強く関心があるが、それがどういうものなのか、自分にどんなことができるのか、何を求められているのかすらも分からないので、この授業でそれ学んで行きたいと思う。
- 大学在学中にちょっとしたボランティアをやりたいと考えている。貧困問題といった海外情勢には興味を持っているため、卒業後、そういった活動（ボランティア）をするかは分からないが、何かしら触れたいと思っている。
- もっと広い視野で世界を見てみたい。環境問題によって、被害を受けた人々を何とかしてあげたい。
- 私は卒業後はどんな仕事についたとしても、例えば主婦になったとしても、環境に対しての協力は欠かさず行うと思う。なぜならば、国際問題には人間一人からの行動、意識が大切であるからです。
- 私の考えている一つの進路としてエコビジネスがある。具体的な希望所属先などはないが、一つの会社の中でただ生産あるいはサービスなどの提供を消費者などにするよりも、エコビジネス会社に就職し、他の会社に他の会社のためにエコロジーのためのサービス、技術の提供、出版などを行っていきたい。環境問題は現在、深刻な問題である。しかし、それは年を追うごとに深刻化するだろう。そう考えると、エコビジネスに携わり、その問題などについて考えていくのが必要だろう。決して、グローバルな活動、仕事にはならないかもしれないが、長い目で見ていけば国際環境協力ということになるのではないか。
- 現実的に考えると、興味はあるが、結局は仕事に就くまでには至らないと思う。別に、その仕事に就かなくても、身近なことから環境活動はできるだろう。例えば、ごみを減らすとか。でも、せっかく専門的に勉強しているのだから、環境ビジネスや活動を積極的に行っている企業に勤められたらいいなと思う。
- まだはっきり分からない。どんな仕事に就くか次第だと思う。でも、卒業後、NGO 等に参加するきっかけがあれば参加したい。人生にとって意味があることをすると思うから。
- まだ決まっていないけれど、三年となって専門的なことを学べるようになったので、いろいろ勉強して何らかの形で関わっていきたい。二年まではやりたいことができなかった。
- 日本が世界に対してどのような援助を行っているのかを学んで、政治の世界にも目を向け、国際環境協力を積極的にやろうとしている政治家を応援したい。
- この授業を受けて考えてみたいと思っています。
- 旭硝子財団の作製する環境危機時計によると現在の時刻は 9 時 5 分であるという。地球の終末は12時であるということだから極めて不安定な状態だ。このような状況で私に何ができるのかと考えると、やはり身近なところで環境改善に取り組んでいくしかないと思う。もしできるのならば、この様な状況について会社で何らかの貢献をしていければいいと思っている。
- 私は途上国の子供の教育に関心を持っている人ですので、国際環境協力論の授業を受けた以上、

一人、二人の助かりができれば、非常にうれしいと思う。

（本学国際学部非常勤講師）